

ひきめししおどり
墓目鹿子踊

- ◇ 指定日 平成8年4月15日
- ◇ 所在地 墓目
- ◇ 保持団体 墓目鹿子踊保存会

墓目鹿子踊りの始まりや由来は定かではありませんが、かつて語られた口上によると、神代の昔16頭の鹿がそろって歌い遊び、神々と共に踊り楽しんだのが鹿子踊りの始まりといわれています。その後、7代孝^{こうれい}霊天皇の御代に、^{やまとのくにかすがのさと きよはらはなぞののかみ}大和国春日里の清原花園守と言う信心深い人のもとに、春日大明神の使者である童子が現れて鹿子踊りを詳しく教え、山里から浜辺に至るまでこの習わしが広まったといわれています。

軽快な太鼓と笛の拍子にのり、勇壮で躍動感あふれる踊りで、右踊りと左踊りに分かれて幕を横に振る特徴があります。

毎年、盆の14日には地元墓目地区で踊り、祖先の霊を慰めています。

主な演目…庭廻し^{にわまわ}（前庭）・三頭ぐるい^{まえにわ みつ}・雌鹿子ぐるい^{めんじし}・桐（後庭）^{きり あとにわ}

